

現在進行中の弊社設計物件の一部をご紹介いたします

K様邸

用 地 専用住宅 構造・規模 木造平屋建・延164.71m²
建 設 地 茨城県水戸市 担 当 友常

水戸市河和田町の三世帯住宅です。広いお庭をどの部屋からも望む事ができる全室南向きの建物は、夏のお引越しを目標に、現在内部造作工事中です。



<その他> 小規模多機能クリクリ、なかむら耳鼻咽喉科クリニック、森の石窯パン屋さん、上菅谷駅前マンション、北茨城市立総合病院、大久保病院、O様邸、E様邸、N様邸、T様邸、石岡第一高校管理・普通教室棟、小美玉市立竹原小学校校舎、水戸警察署庁舎(耐震改修工事監理)、那珂湊第一小学校(耐震補強設計)、那珂湊第一小学校校舎(耐震補強工事監理)

プロテック本社

用 地 事務所ビル 構造・規模 S造3階建・延389.96m²
建 設 地 茨城県水戸市 担 当 佐藤・加藤

水戸市役所近くに建設中の鉄骨3階建ての事務所ビル。1階に駐車スペース、2・3階に事務所を設けた自社ビルです。現在、山留めが終わり、6月の建て方に向けて工事が着々と進行しています。



株式会社 エイプラス・デザイン
一級建築士事務所

住まう人を考える
良質な家づくり

設計事務所からのお知らせです。

株式会社エイプラス・デザイン
一級建築士事務所

伊井 和久

一人では、考えが偏ったり、問題点を見逃してしまう等、限界があります。

みんなでやれば多くのアイデアが生まれ、問題点も見えてきます。

私達は、チーム一丸となり、お施主様のご期待に添えるよう、取り組んでいきたいと思います。

この度4月からチームリーダーになりました亀田です。会社では古株に属してしまう私ですがフレッシュな気持ちで新年度のスタートを切りたいと思います。

チームスローガンは「助け合い、そしてときには厳しく…」とし、邁進していきたいと思います。

伊井 和久
亀田 駿介



<ABH>2014年1月 担当: 佐藤・加藤

新人紹介 小島 裕一



はじめまして。4月から入社しました小島裕一と申します。10年ほど都内の会社に勤めてまいりましたが、やはり生まれ育った地元のある茨城で働きたいという思いから、この度、一緒に仕事をさせて頂く事になりました。今後ともよろしくお願ひいたします。

新人紹介 中村 亮太



はじめまして。新入社員の中村と申します。地元である水戸に貢献したいという思いからエイプラス・デザインでお世話になることになりました。

至らない点が多くあると思いますが、何卒よろしくお願ひいたします。

無料相談開催中! お問い合わせは株式会社エイプラス・デザインまで!!

株式会社 エイプラス・デザイン
一級建築士事務所

0120-656-556

く水戸事務所>〒310-0021 茨城県水戸市南町1-3-23 カナザビル3F

TEL.029-227-3361 FAX.029-302-2793

くつくば事務所>〒305-0047 茨城県つくば市千現2-1-6

(つくば研究支援センターC-A-7)

TEL.029-875-5595 FAX.029-856-5596

E-mail info@aplus-design.jp http://www.aplus-design.jp/



ごあいさつ

この原稿を書いている4月の第1週、事務所の近くの桜が一斉に咲きました。春の暖かい日差しと、爽やかな風の中で桜の花を見ていると、心の中まで暖かくなってくるようです。

この4月からは、弊社に2人の新しいスタッフが加わりました。事務所の中の爽やかな風を心地よく感じると同時に、建築家として成長していくことを今から楽しみにしております。

4月から変わったことといえば、消費税率の引き上げがありました。とりあえず今回は3%の引き上げでしたが、建築という大きな買い物での3%は非常に大きな引き上げだと言

えます。3月までの駆け込み特需も多少はあったようです。

しかし、3月までの建築資材の高騰や4月以降の税制上の優遇措置等もあり、大きな混乱はなかったように感じました。膨大な情報の中から、消費者の皆さんが的確な判断を行った結果ではないでしょうか。

多くの情報が氾濫し、めまぐるしく変化が続く世の中ですが、「より良い設計を通じて社会に貢献する」という弊社の理念には変化はありません。いつまでもお客様に喜んでいただける建物の設計が出来るように、努力を続けてまいります。

今後ともエイプラス・デザインをよろしくお願いいたします。



平成26年5月
株式会社エイプラス・デザイン
専務取締役 池田 洋

まちづくり活動特集

いつも一つ一つの建築を紹介していますが、今回はちょっと趣向を変えて、エイプラス・デザインのまちづくりへの関わりをご紹介します。

水戸商工会議所 「まちなかしきりデザイン」

水戸商工会議所では、将来の水戸のビジョンを水戸市民が考える「まちなかしきりデザイン」としてまとめる活動を行っています。

専門家／一般市民、老人／若者、子育て中のお母さん／商店主など、様々な市民の意見を、約2年かけてヒアリングし、意見を集約していました。その第1回ヒアリングに講師として佐藤が招かれたことをきっかけに、委員会のアドバイザーとして、計画策定のお手伝いすることになりました。



あーだっぺ・こーだっぺ・ そーだっぺ・どーだっぺ水戸!?

震災直後、被災した水戸市役所の移転話が持ち上りました。現地建替えや上市移転など、さまざまな意見が交錯する中、単に市役所の移転先を考えるだけでなく、将来の水戸をどのように考えるかを提言し発表しました。多くの人が関心を寄せてくださいり、新聞でも取り上げられました。



上市朝会／水戸B・B・B (バー・バル・バール)への参加

有志が集まって、水戸の街について語り合う上市朝会に参加しました。また、そこで企画された水戸バー・バル・バールの立ち上げ時に企画参加しました。今ではすっかり定着して、多くの人々が楽しむイベントになり、佐藤も運営側からただの呑兵衛として参加しています。

水戸まちなか フェスティバルへの参加

水戸まちなかフェスティバルへも企画段階から参加し、日本建築家協会に働きかけて、「水戸のまちをつくっちゃおう」を運営しています。第1回、第2回とも大変ご好評をいただき、今年も継続して開催する予定です。



一般社団法人 建築トラブル相談センター

消費生活センターなどには、多くの建築トラブルが寄せられます。なかなか解決が難しい建築トラブルですが、地域で活動する建築家として、作るだけでなく、様々な相談にも対応することができるよう、建築トラブル相談センターを設立しました。

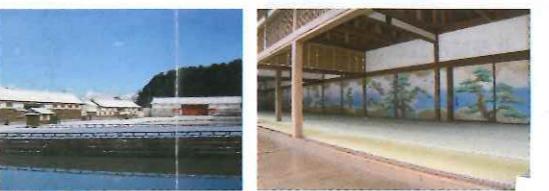


まちづくり100年委員会 泉町北地区再開発に対する提言

京成百貨店移転の際に、周辺の住民や商店主が集まって、泉町北地区（京成百貨店跡地）をどのように活用したら望ましいかを検討しました。建築家としての立場から、具体的な絵を描き、発表したところ大きな反響をよび、新聞やテレビで取り上げられ、市長にも直接説明する機会を得ました。

映画「桜田門外ノ変」 オープンロケセットの設計

市民が企画・製作をした映画「桜田門外ノ変」のオープンロケセットを作ることになり、その設計と取り組めを担当しました。ほとんどボランティアでの参加でしたが、無事映画を撮影することができ、また、セットは後に一般公開され、多くの観光客が訪れてくださいました。



まちづくりは住んでいる人が主体

エイプラス・デザインは、水戸にこだわっています。水戸に多くの建築をつくらせてもらっていますが、これは、ある意味水戸のまちをつくるともいえると思います。一つ一つの建築には、もちろんそれぞれ建築主がいて、それぞれに目的や機能がありますが、それらが集まってまちをつくるのであれば、そこに何らかの共通意識があるべきだと思います。そして、それを提案するのは多くの建築にかかる、私たちの役割なのではないかと思っています。

今まで様々なまちづくり活動に参加してきましたが、今、最も必要なことは、多くの人が「こうであってほしい」と思える水戸のビジョンを示すことだとと思っています。それを示すことができたら、今とは全く違った、一人一人が主体者となるまちづくりが始まるのではないかと思っています。

まちづくりなんていうと、話が大きすぎて「そんなことは役所がやること」と思いがちです。実際、数十年前までは自治体が主導してやってきました。でも、そうやって任せにした結果、様々な問題が生じているのではないかと思うのです。明確な指標があれば、住んでいる一人一人が、自主的にまちづくりに参加できるようになると思います。

実際、成功事例といわれる街を訪ると、老若男女・商店主やサラリーマンから主婦まで、いろんな人が自分のまちづくり熱く語ってくれます。みな目を輝かして説明してくれます。あるまちでは、役所の担当者が、数年で異動になってしまったために、まちづくりに関して、一番レベルが低くて、足をひっぱっているという話を聞きました。

まちづくりは、他の誰でもない、一人一人の住民の問題であり、一人一人が活動をするべき問題なんだ、痛感させられます。

今、いろいろなまちづくり活動に参加していく、色々なところで発表する機会を得ていますが、よく「こういう事についても、是非考えてみてください」「〇〇地区はこういう問題があるんだけど、どうしたらいいでしょう」とか言われることがよくあります。そういう時の答えは決まっています。

「まずは、自分で考えたら？貴方は考えちゃいけないんですか？」

株式会社エイプラス・デザイン 代表取締役 佐藤 昌樹

ABH

用途 専用住宅
建設地 茨城県茨城町
構造・規模 木造2階建
124.41m²
竣工 2014年1月
業務内容 新築設計監理
担当 佐藤・加藤

とある家具屋さんに展示してあった“校倉造のクリのキッチン”に、A様が一目惚れしたところから話は始まりました。

普段は木で造られることの少ないキッチンでさえ木製ということで、設計を進めていく中で我々の共通認識として当然『和』が重要なテーマとしてありました。

南側に建物がある立地に光を取り入れる為、家の中心に吹き抜けのキッチンダイニングを配することで、家全体に明るい光を届け、家族の存在が常に感じられる空間としました。スギとサクラ、2種類の無垢の床は心地よく人々を誘導し、クリのキッチンがお出迎えしてくれます。そしてその隣にしっかりと構える和のリビング。そこは、畳や障子はもちろんのこと、クリの階段箪笥、2段構えの格天井、鶯のじゅらく壁といった伝統的な日本家屋の要素を積極的に取り入れた、他にはないこだわりの空間となりました。クリやスギ、ヒノキといった木質の異なる様々な要素は、色を統一させることで空間に一体感をもたせています。

A様の「和」への思いに触発されご提案した長屋門の外観は、今やA様邸のシンボルです。そして家へのアプローチは長屋門の化粧垂木の軒をくぐることで内部の雰囲気を期待させる演出となっています。

至る所で和が共鳴し広がっていくA様邸は、お施主様の思いのいっぱい詰まった、家族の笑顔あふれる家となりました。



お客様の声

田舎にある祖父の家への憧れ、 こだわりの日本家屋で過ごす家族の笑顔。

家を建てたいと思い頑固おやじ（家具店）の社長さんに、設計士さんを3人紹介してもらいました。その中で佐藤先生だけ図面を3案持ってきてくれたので、他とは違うなど好印象だったのを記憶しています。それらの図面は、将来、子どもたちが家を作る時の参考になると思い、全部保管しております。

毎回会うたびに、理想の家作りへのこだわりを聞いてもらったりますが、佐藤先生の知識と閃きは凄かったです。自分の要望を話すとすぐに答えてくれて、私自身も勉強するようになりました。すべて先生の提案通りにしたかったのですが、予算がオーバーしてしまう。妻の顔色を伺いながらコスト削減との闘いでしたね（笑）。

前の家は暗かったので、吹き抜けにしてほしいとか、妻の動線に配慮してほしいとか…。外見は妻の希望で、中身は自分好みの和風でいこうと思っていた。

実は佐藤先生にお願いする前に、ハウスメーカーと契約したのですが、ちょっとしたトラブルが起り、その時の営業さんの対応に納得出来ずにつきあわざりしました。今振り返ると、色々

提案をしてくれた佐藤先生のところにお願い出来て、本当によかったです。

以前から欲しかった校倉つくりのキッチン、階段箪笥、檜床、格天井、二条城に使われていたという桜の広縁…。大好きな田舎の爺ちゃん家に憧れていたので、木の香りいっぱいの家に住めて快適です。お祝いに来てくれた親族からも、頑張ったなど称賛されています。佐藤先生のアイディアで作った長屋門から見ると、ちょっとした料亭のようだと友人に言われました。

「お城のような家に住んでいるね」と友達に言われ、「この門はパパのこだわりなの」と娘が話しているのを耳にしたのも嬉しかったですね。妻という一番の理解者と共に、こだわりの家作りを成し得たことで、子どもたちにも何かが伝わったのですかね。

2階部分は、まだ子供が小さいので、仕切らずオープンな状態にしてあります。いずれは個室にする予定です。我が家は子どもたちの成長と共に進化をしていきます。娘たちが大きくなり、妻とキッチンで料理する姿を見るのも今から楽しみですね。

各作品詳細、他のエイプラス・デザインの家はホームページをご覧ください。

<http://www.aplus-design-house.jp/>

エイプラスデザイン 検索